

富田林市教育委員会委嘱研究発表（二年次）

---

Society5.0 時代を生きぬく子どもたちの育成

# 伏山ってええやん！

ペアで、  
グループで、  
みんなで話し合い、問題解決する力をつける

---

富田林市立伏山台小学校



## 研究授業

第1日 2020年 11月25日（水）

第2学年1組 生活科「You Tuber になって、学校しょうかいをしよう」

第5学年2組 総合的な学習 「地域の方の困り感を解決するプログラミングロボを作ろう」

第2日 2020年 12月8日（火）

第4学年1組 総合的な学習 「防災マップを作ろう」

## 全体講師

和歌山大学教職大学院 豊田充崇先生

大阪産業大学全学教育機構教職教育センター 山田啓次先生

富田林市教育委員会 西岡隆先生



## ◆はじめに

伏山台小学校校長 浅井美佐



右の RQ コードからご覧ください。

## ◆研究の三本柱





情報活用能力育成カリキュラム

## ◆「伏山 STEPS」

**STEPS（ステップス）** は一步一步自分の力で階段をのぼっていくように、体験や経験を積み上げて子どもたちが情報活用能力をつけていく様子を表しています。また、そのために必要な5つの要素の頭文字を表しています。

**S（スキル）** 基礎的な知識・技能を身につける。

**T（ツール）** 収集した情報を精査し比較分析する。

**E（エクスプローラ）** 自分の考えをまとめ、表現し発信する。

**P（プログラミング）** コンピューターの特性を活かし問題解決する手順を理解する。

**S（セキュリティー）** 安全かつ適切にICT機器を活用する。



### ICT活用

（スカイメニュー、ロボットプログラミング、タブレット、デジタル教材など）

和歌山大学から豊田先生、大阪産業大学から山田先生をお招きして、職員研修を実施しました。豊田先生にはICT機器に職員が慣れることをはじめ子どもたちの学習環境をどのように整えていくのかなどご指導いただきました。山田先生には職員にプログラミング教育についての実技研修、子どもたちにアテックロボの出前授業をしていただきました。

また富田市内はもとより、校内における職員研修において、ICTを活用した授業づくりについて研究を深めました。

### UDを取り入れた授業

（伏小スタンダード、合理的配慮に基づく授業づくり、ビジョントレーニング）

本校の支援コーディネーターを中心に職員研修をおこないUDを取り入れた校内環境作りと授業の確立に努めました。

下足室の傘立ての使い方、清掃用具の使い方などに視覚支援を取り入れ、各教室の掲示物も全学年で揃えました。また、授業の流れをホワイトボードで提示しました。2年次には授業におけるナチュラルサポート（基礎的環境整備）11項目を確認し、学習指導案にも記載するなど授業づくりにUDを取り入れることを定着させました。ひとりひとりの子どもたちに確かな学力を定着させるためビジョントレーニングにも取り組みました。

### 伏山ってええやん！

（総合的学習・生活科のカリキュラムの見直し）

地域の人に感謝しふるさと伏山を大切に思う心が育ってほしいと願って、カリキュラムの見直しをおこないました。


地域とかわり、つながることで見えてきた課題をプログラミング学習で解決したり、魅力や良さを発信し伝えたりしました。地域連携行事がさかんな本校の特色を大切に、サポーターさんありがとうの会をはじめ、各学年に地域の方との連携授業を取り入れました。

（1年：昔あそび、2年：校区探検、3年：商業工業見学、4年：マーヤの家交流、5年：地域の方にインタビュー、6年：竹細工、干しいも作りなど）



## ◆ICT 活用授業実践の紹介


指導年間計画(1～6年生)の中で ICT 機器活用が適している授業をピックアップし、各学年で授業実践に取り組みました。QR コードから指導略案をご覧ください。




1 年生・図工  
「なぞのせいぶつを作ろう」  
山本 万祐子




4 年生  
社会科・総合的な学習  
「防災マップを作ろう」  
栗木 陸行




2 年生・生活科  
「You Tuber になって、学校しょうかいをしよう」  
2-1 高橋 昌代  
2-2 中村 圭子



5 年生・総合的な学習  
「アーテックロボの使い方をマスターしよう」  
5-1 高岸 美幸  
「地域の方の困り感を解決する  
プログラミングロボを作ろう」  
5-2 厚芝 章博



3 年生  
社会科 「避難経路を探そう」  
3-1 大迫 翔大  
国語 「ローマ字の練習」  
3-2 辻野 奈津美



6 年生  
社会科「なんちゃって国会をひらこう」  
6-1 瀬戸 貴規  
算数 (関連：社会、道徳)  
「伊能忠敬になって、およその面積を求めよう」  
6-2 槻木 司

## ◆ICT 活用授業実践の紹介 2

支援学級(ひまわり学級)、通級指導教室(チャレンジ教室)、専科の授業での効果的な活用方法を紹介します。QRコードから指導略案をご覧ください。



ひまわり1組

神谷 徹

「カタカナや漢字と数の習得」

ひまわり2組

高塚 綾華

「ひらがなの習得」

ひまわり3組

梅本 恵美

「言葉と数の習得」

ひまわり4組

湯口 芽衣

6年「国語の授業」

チャレンジ

赤瀬 瞳

3年「国語の授業」



家庭科

井ノ内 やす子

6年「一年間の学習のまとめ」

理科

大浦 正好

5年「ヒトの誕生」

音楽科

杉谷 直美

6年「レミソラシの5音で作曲しよう」

外国語科

西口 史織

6年「This is my town.

自分の町や都道府県について紹介しよう」

保健室

伊藤 智恵美

「手洗いうがいをしてコロナに負けない体をつくろう」



## ◆UD(ユニバーサルデザイン)を取り入れた授業づくり

### ●授業におけるナチュラルサポート(基礎的環境整備)

一年次は学期ごとに「ユニバーサルデザインに基づいた授業づくり」106項目を確認し合い達成できるように努めました。二年次は環境整備に焦点をあて、校内の掲示物や教室の環境を整えました。また、授業者が意識して授業づくりができるように11項目を「授業におけるナチュラルサポート」として学習指導案に記載しました。

授業におけるナチュラルサポート (基礎的環境整備)

あ	教室環境を確認する。(机の並び方、落ちているもの、収納状況、掲示物等)
い	教科書、ノート等、必要なもののみを机の上に置いているか確認する。
う	授業のめあてを書き(貼る)、本時のポイントを明確に示す。
え	全員が静かになったことを確認してから話し始める習慣をつける。
お	板書を工夫する。(板書の量・書く位置、区切り線をつける、色の配慮等)
か	今は、「聞くとき」「書くとき」「話すとき」を区別し、同時に提示しない。
き	大切な指示や内容ポイント等の大事なところは、何度か繰り返し説明する。
く	視覚的に示すことができる教材・教具を多用する。
け	本時のポイントを復唱し、まとめ、振り返りを行う。
こ	授業の中で何度か、リスタートの場面をつくる。
さ	全体への説明や指示はできるだけシンプルにする。



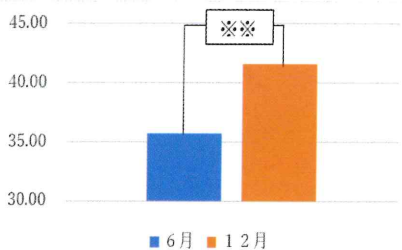
### ●ビジョントレーニングとスクリーニングテスト

伏山台小学校の子どもの実態として、「見る力の弱さ」・「集中力・集中を持続させる力の弱さ」が見られました。これらの弱さは、漢字の形の認識、書字の速さ、正確に板書するなどの処理速度に影響を与えていました。そこで、一年次(令和元年度)の9月より月曜日と金曜日の朝学タイムでビジョントレーニングを開始することになりました。ビジョントレーニングは、校内一斉にCDの曲に合わせておこなう1分30秒ほどの目の体操です。

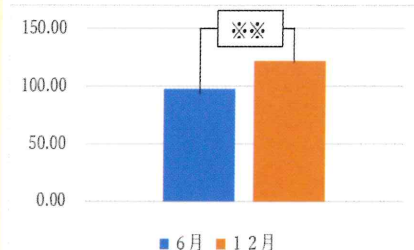
また、ビジョントレーニングの効果を実証するために、9月と3月にスクリーニングテスト(追従・跳躍・視知覚)を行いました。しかし3月から臨時休校になったため、5-1、6-1、6-2のスクリーニングテストしか行えませんでした。二年次(令和2年度)もこの取組を継続し、全学年を対象に6月と12月にスクリーニングテストを実施しました。二年間のまとめとして検証と考察は研究紀要にまとめています。

#### (研究紀要より一部抜粋)

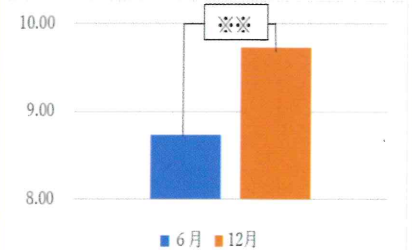
(図5「跳躍」における得点の平均値とT検定の結果)



(図6「追従」における得点の平均値とT検定の結果)



(図7「追従」における得点の平均値とT検定の結果)



二年次ビジョントレーニングのスクリーニングテスト(追従・跳躍・視知覚)の結果、実施前と後では、全3つの項目(追従・跳躍・視知覚)で高まっていた。これは、現在週2回行っているビジョントレーニングの効果があったことが考えられる。しかし、一定の効果は見られたが、本研究では、児童の発達段階での伸びとビジョントレーニングを取り組んだための伸びとの関係性を検証していないため、今後も継続して検証していく必要がある。

NS : 有意差なし  
 ※ : p < .05 有意差あり  
 ※※ : p < .01 有意差あり



## ◆本校の課題とそれに対する取組

学習状況調査から総合的な学習・情報活用能力に関するアンケート項目の結果を考察し、本校の課題に対する取組を実施しました。

### ●地域連携（2018年度全国学力考査・学習状況調査の結果より）

質問事項	本校	全国	差
今住んでいる地域の行事に参加していますか	24.5%	35.9%	-11.4%
地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	28.3%	40.1%	-11.8%
地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことはありますか	17.0%	17.3%	-00.3%

#### ・課題と取組

子どもたちは地域とのつながりについての意識が低く、希薄に感じていることがわかりました。これは、本校の地域連携が、系統性がなく地域の方との交流行事にとどまっていることと、学習としての深まりと積み上げがないことが原因ではないかと考えました。

そこで、まず、教師が地域の方々の思いを子どもたちにわかりやすく伝えられるような授業の検討から始めました。そして、子どもたちが地域の方の思いを受け止め、疑問に思ったことは自分で解決し、自分の考えを発信できるような深まりのある取組にしたいと考え、6年間を見通したカリキュラムを見直しました。

（「伏山ってええやん！」のカリキュラムは右のQRコードからご覧ください。）



### ●ICT 機器活用・情報活用能力（2019年度全国学力考査・学習状況調査の結果より）

質問事項	本校	全国	差
5年までに受けた授業でコンピューターなどのICTをどの程度使用しましたか	週一回以上の使用		
	10.0%	30.6%	-20.6%
授業でもっとコンピューターなどもICTを活用したいと思いますか	64.0%	60.8%	+ 3.2%
総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	10.0%	25.1%	-15.1%

#### ・課題と取組

これまでの本校におけるICT教育は、タイピング練習、新聞作り、情報検索などの個人作業や全員が同時に同じ内容を学習することが行われていました。そのため、積極的に情報活用した学習活動を行っていると感じた子どもたちが少ないのではないかと考えました。

そこで、発表や思考を可視化するツールとしてタブレットを話し合いの授業に取り入れることにしました。タブレットは、個人の学力に応じた課題をそれぞれのペースで実施することができます。そのため、一人一台のタブレット環境を整えるとともに、教師の授業づくりに対する意識の改革とICT機器活用の指導力向上に努めました。

## ◆研究授業紹介

第1日 5年2組

授業者 厚芝章博先生

助言者 山田啓次先生 (大阪産業二大学)

プログラミング教育

総合「地域の方の困り感を解決する  
プログラミングロボを作ろう」

アーテックロボ 2.0 を活用し、グループで話し合いプログラミングロボを作りました。ロボットの魅力を紹介するプレゼンを作りました。

第2日 4年1組

授業者 栗木陸行先生

助言者 豊田充崇先生 (和歌山大学)

総合「防災マップを作ろう」

ルックアラウンドを活用し、地震に備えて避難経路を考えました。グループで話し合い、よりよい避難経路を考えました。

第1日 2年1組

授業者 高橋昌代先生

助言者 豊田充崇先生 (和歌山大学)

生活科「YouTuber になって、  
学校しょうかいをしよう」

自分たちで撮影した伏山台小学校の紹介ムービーを発表しました。

